

『小児の頭痛』序章 小児期から起こる頭痛に対する理解を深めるために

文 清水俊彦

text by Toshihiko Shimizu

頭痛は決して大人だけの病気ではありません。実は小児期からも起こり得る疾患なのですが、様々な状況から疾患として認識されることが少なく、見落とされがちなのが現状なのです。実際わたくしの小児頭痛患者様が休日

に頭痛がひどくなり、救急病院を受診した際に、片頭痛と診断されていると当直医師に伝えたところ、子供に片頭痛などあるわけがないと断言されたそうですが、私にそのように診断されていると告げたところ、暫くたってから、あるかもしれないと小声で呟いたそうです。後にその当直医はかつて大学の後輩だった優秀な脳神経外科医であることが判明し、伺った私も苦笑せざるを得ませんでした。

このように誤認されがちな小児の頭痛を放置することは、後々、大人になって頭痛の慢性化や毎日の頭痛に対して、頭痛薬での対処を繰り返す結果、薬剤の使用過多による連日の頭痛を二次的に招く危険性をもはらんでいるのです。また片頭痛などの慢性的な頭痛の背後に潜んでいる脳の異常な過敏状態が慢性化することにより、本来、際立った

才能を持つ優秀な脳にダメージを与えた結果、記憶力低下や多動気味な状態をきたし、学業にも支障をきたしかねないのです。子供が頭痛いと訴えても、学校に行きたくないせいでとか、風邪気味による頭痛だろうと軽視されがちが多く、学校や親の理解さえも得られず、最悪、折角受診した医療機関でさえも、適切な診断と加療がなされないことすら多々あるのが現状なのです。

また頭痛の中には片頭痛や緊張型頭痛など、生命予後に支障をきたさない目には見えない頭痛もあれば、脳腫瘍や脳血管障害、更には髄膜炎など、二次的な原因が脳内にあり、適切かつ迅速な対処がなされないと、生命予後に重大な支障をきたすような器質的な頭痛もあるのです。小児の頭痛をきたしうる脳血管障害の中でも、モヤモヤ病（ウイルス動脈輪閉塞症）は特に注意の必要な、本邦人を含めたモンゴロイド（モンゴル人種）には比較的多いとされている注意を要する疾患であり、大人の場合には脳出血として発症することが多いのに対して、小児では片頭痛に似通った頭痛や脳梗塞、時にけいれん

や意識消失発作として発症することが多いのです。

小児の頭痛

に対する理解が深まり、一人でも多くの頭痛に悩む小児患者様に、適切な対処が施されることを願いつつ、次号から全10回シリーズで小児の頭痛を特集してゆく予定です。次号、第一回目は、「小児頭痛と発達障害との関連について」と題して述べてゆく予定です。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。『頭痛女子のトリセツ』（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。

